

扇窓

—同窓会だより—

No. 116 (令和 6. 2. 29発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓生寄稿
- 2面 同窓生寄稿
- 3面 同窓生寄稿、お知らせ
- 4面 魚高生の活躍、お知らせ



剣 立山

日本スポーツ振興センター国立登山研修所長 米山 隆 (魚高32回)

同窓会や在校生の皆様の多くの方々は、立山雄山(3003m)に登山されたご経験があるのではないだろうか。私も、魚津市立道下小学校(6年生)の学校登山で雄山初登頂を果たした。しかしながら、「岩と雪の殿堂」剣岳(2999m)となると、その登頂者は極めて少ないのではないだろうか。

扇窓110号に寄稿させていただいたが、魚津高校入学後、ラグビーに出会い、そのことが自分の進路に大きく影響し、地元富山県の体育教諭となり、定年退職まで奉職することができた。尤も、学校で教鞭をとったのは、新規採用から11年間(入善高校7年、魚津工業高校4年)だけで、以来退職まで行政機関に在職し、そのうち平成14年から4年間、文部科学省登山研修所に勤務した。

恥ずかしながら、当時、登山研修所がどこに在るのかさえ知らず、その職務についても全く無知であった。4月に赴任し、その月の半ばに、いきなりヘリコプターに乗り込み、1.5mほどの高さから剣沢の大雪原に飛び降り、雪に埋もれた小屋を探し出し、3日間ほどかけて掘り出した後、帰路は使いたい方もままならないアイゼンとピッケルで冬山登山さながら、室堂まで歩いて戻るといふ過酷な任務の洗礼を受けた。

登山研修所在職中に、何度か剣岳に登頂した。しかも、初登頂は、一般ルート(別山ルート)ではなく、バリエーションルートと言われる熟練者向けのルート(映画『剣岳点の記』と同じルート)であり、山頂近くにはここから先は「熟練者以外立ち入り禁止」と書いてある標柱の反対側の北方峻線から登ってきたものであった。それでも、四季を通じた山の自然やその厳しさ、それらの環境で生き抜く力、またそこにかかわる山小屋や富山県警山岳警備隊の人々との交流、崇高な精神など、学校ではほぼ味わ

うことのできない貴重な経験をできたことは自身にとって、何にも代えがたい財産であったと認識している。

富山県を定年退職後、約20年ぶりに国立登山研修所(2009年文部科学省から日本スポーツ振興センターに移管)に奉職することとなった。登山の態様や技術、IT化など、時代のニーズに対応した変容も見受けられるが、その厳しさなど普遍性を改めて感じると共に、年々増加している山岳遭難に対して、登山研修所が果たすべき役割の重要性を痛感しているところである。

同窓会や在校生の皆さんは、魚津高校山岳部(大正時代末期に魚津中学校登山部として発足し、戦後昭和23年に創設)が、野球やラグビーに負けず劣らず、当時超高校級の山岳部として世に広く認識されていたことをほとんどご存じないだろう。なんと、剣岳のバリエーションルートの八ツ峰Aフェースには「魚津高校ルート」(1951/7/26初登攀)なるルートが広く認知されており、現在も当研修所の研修会などにおいてもごく自然に言葉として耳にすることが度々あり、誇らしく思っている。北アルプスや海外登山など先鋭的なアルピニズムに挑んだ諸先輩方に改めて敬意を表したい。

現在も含めて、スポーツが軸ではあるが、多様な置かれた立場で自分なりに取り組んでみるとそれなりに前向きで楽しく過ごしてきたように感じている。何事もトライしてみないと本質はつかめないのではなからうか。余談になるが、ラグビーでは、元々、トライ後のゴールキックが成功して初めて得点になることから、キックにチャレンジできる権利を得るといふ意味で「トライ」という言葉になったとのことである。在校生の皆様にはいろいろなことにはトライして、人生を大いに楽しんでいただきたいたいところである。

令和五年度 魚津高校同窓会

木村 有 希 (魚高54回)



8月13日、ホテルグランミラージュにて同窓会総会が開催され、司会の五十里副校長による進行の元で議事が進められ、承認されました。また、澤崎豊幹事長から伊藤潤一郎新幹事長への交代など、執行部役員の名退、就任の紹介がありました。総会終了後には、慶應義塾大学量子コンピューティングセンター共同研究員中村肇氏による「量子コンピュータの最新線から」と題した講演会を拝聴しました。

その後に行われた懇親会には、百名近い同窓生が集まりました。幹事学年代表住和慎一郎氏(魚高54回卒)、同窓会会長大田弘氏の挨拶に続き、魚津市長村椿晃氏、同窓会名誉会長中尾哲雄氏、衆議院議員上田英俊氏の祝辞を経て、東京魚高会会長升方充氏による乾杯の発声で歓談が始まりました。どのテーブルも笑顔に溢れ、楽しいひと時を過ごすことができました。会の終盤では校歌を母校の写真とともに静聴し、来年度幹事学年代表平雄造氏による挨拶、同窓会副会長長谷川光一氏による万歳三唱と亀谷校長からの返礼の万歳で閉会となりました。

新型コロナウイルス感染症による影響でここ数年は同窓会総会や懇親会の持ち方を変えざるを得なかった中、今年度はコロナ前とほぼ同じように開催することができました。懇親会を企画・運営する際には同窓会執行部の皆様にたくさんのお言葉をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。また、懇親会後には第54回卒業生の同期会も開催しました。恩師や旧友との再会にどのテーブルも会話が弾み、22年という月日を感じさせないほどの盛況ぶりでした。次回はぜひ、還暦の年の節目に集まりたいと思います。

今回の同窓会準備を通じ、魚津高校が多くの卒業生を輩出して広く社会で活躍していること、そして同窓生が共有している愛校心の強さを改めて感じました。今までは諸先輩方の姿から学ばせていただき、その恩恵を受けることの方が多かった私たちですが、今後は後に続く後輩たちにもそれを伝えていくことができるように精進していきたいと思えます。



何のために——



平

雄 造
(魚高55回)

今でも忘れられない言葉がある。
「あなたはなんで勉強するのですか。」

私にそう言ってくれたのは魚津高校の先生だった。

私が働く上で大切にしているエピソードを一つ。

「アメリカのある鉄道会社の社長が線路修理の現場視察に訪れました。すると一人の作業員がやってきて社長に話しかけます。『やあ久しぶり。君もずいぶん出世したね。元気かい。』それは、数十年も前に一緒に作業員として働いていた友人でした。友人は言いました。『あの頃は50ドルの日給をもらうために働いていたのね。君も変わったね。』社長は答えました。「そうか。君は50ドルをもらうために働いていたのか。私は昔も今も、この国の人々が、快適に旅ができるように働いているよ。」

生きていく上で「目的」はとても重要である。「50ドルをもらうこと」を目的に働く者は、50ドル分しか働かないだろう。「それは私の仕事ではない」、「それをしてほしいなら給料を

第5回海外研修報告 大野謙一(魚高38回)

12月5日(火)朝、黒部宇奈月温泉駅において参加生徒19名と同行者、学校長や学校関係者、保護者らが参加して第5回海外研修の出発式が行われ、期待と不安を胸に9日間にわたる研修がスタートした。今回の研修は新型コロナウイルスの影響で海外での研修は4年ぶりである。期間は同じであるが、行先はカナダ・バンクーバーに変更となり、語学研修、市内見学、ホームステイを中心としたプログラムとなった。

【研修について】

主にキットラム市にあるスタディセンターで、コーディネーターのリンさんと軽く体を動かすようなゲームを行い徐々に緊張をほぐしながらプログラムが進められた。リンさんからの質問に答えながら時折笑顔も見られるようになり生徒たちは安心して取り組んでいた。

次の日はプリティッシュ・コロンビア大学で現地の大学生との交流が行われた。2,3人のグループに分かれ、それぞれに担当する学生と会話を行った。そのあと、大学生が構内を案内してくれ大学の規模や雰囲気を感じてくれた。学生との交流は午前中だけであったが、コミュニケーション能力を伸ばすにはとても良い機会であった。

研修最終日には、グループごとにカナダで印象に残った場面についてプレゼンテーションを行った。研修が始まった頃は声が小さく、自信がないような生徒も見られたが、数日間過ごすだけで、どのグループも堂々とプレゼンする様子が見られ変化の様子が驚かされた。

【市内見学について】

スタンレーパークは、「大都市の中にありながらも幾多の自然の造形美に囲まれている公園」という紹介に違わず美しい公園であり、非常に印象に残った場所の一つである。その後、世界で唯一の蒸気時計や繁華街の一つであるロブソン通りを見て回り、夕方にはアイスホッケーを観戦した。プロチームの試合ではないものの、そのスピードと迫力に圧倒された。

【ホームステイについて】

2人または3人ずつホスト宅にお世話になった。生徒の様子を見る限り大丈夫だろうと思いつつも、習慣のちがいがや思わぬ行き違いでトラブルが起きないように願っていた。幸い、心配していたことは杞憂に終わり、良好な関係を保ちながら交流を深めてくれたようで大変安心した。生徒達は、週末にいろいろな場所に連れて行ってもらったり、クリスマスツリーの飾り付けを一緒にしたりと、充実した時間を過ごせたようである。ホストファミリーのご厚意に深く感謝したい。

【まとめ】

研修中に体調を崩す生徒も見られたが、いざれも大事には至らず、概ね元気に研修プログラムを行っていた。最初は緊張した様子も見られたが、次第に積極的に参加するようになり研修を楽しんでいたように思う。英語での会話についても分らないところは相手に繰り返しを求めするなど、遠慮せずに自分の意思を明確に表現しようとする場面が多く見られた。

私にとってカナダは初めてであり、いろいろな面で刺激を受けた。特にコーディネーターのリンさんが自己紹介のときに、「私はバンクーバーに誇りを持っていて。」とはっきりおっしゃったことが非常に印象的であった。この研修を通してカナダという国に今まで以上に関心を深めたと同時に日本について、そして富山についてより関心を抱くことができ、自分を見つめ直す機会をもらったように思う。

終わりに、この研修に際し、同窓会が設立した紅奨学基金から100万円の補助をいただいたことを始めとして、保護者の方々、本校職員、株式会社、ホストファミリーの方々などいろいろな方面から、多大なご支援やアドバイスをいただいた。学校によってはいろいろな事情で海外研修を中止せざるを得なかった中で、このような支えがあったからこそ、貴重な研修を無事に終えられたと感じている。この場をお借りして深くお礼申し上げます。



上げてくれ」、「50ドルしかもらっていないのに、文句を言われる筋合いはない」と。対して「人々が、快適に旅ができるようにすること」を目的とするものは、仕事に向かう姿勢が違う。「どうしたら快適な旅ができるようになるのか」、「自分ができることは何か」、「今足りないことは何か」と考えるようになるからである。

高校生だった私は何のために勉強をしていたか。現役高校生たちは何のために勉強しているのか。「いい点数・いい番数を取る」が目的なのか。「いい大学に入ること」が目的なのか。あるいは「世の中の役に立つ人になること」が目的なのか、「もっと大きな夢をつかむこと」が目的なのか。目的の設定が、自分の人生を大きく変える。

今、私は中学校教師として働いている。「目の前の生徒が強く、たくましく自分の人生を切り拓いていけるようになる」ことを目指している。時間もかかるし、一筋縄でいくことではない。働き方改革が叫ばれる世の中にあつて、その流れに逆行しなくてはいけないことも多い。でも、だからこそ、働く意味がある。そうして卒業していった生徒たちがきつと世の中をよりよくしてくれると信じている。

何のために。それを考えることが、自分の人生を大きく変える。負けそうなとき、挫けそうなとき、きつとそれが自分を支えてくれる。あのとき、魚津高校の先生が教えてくれたのは、それだったのだと思っている。



魚高生の活躍 (令和5年8月～令和6年2月)

○陸上競技部

・富山県高等学校新人陸上競技対校選手権大会

男子ハンマー投げ	第4位	山原 大知	1-3
女子400m	第7位	前田 望実	1-1
女子やり投げ	第4位	中林 沙羅	2-3
男子3000m障害	第7位	中谷 瞭太	1-2
女子3000m	第7位	川尻 悠加	1-2
女子800m	第7位	川尻 悠加	1-2

・第36回富山県高等学校駅伝競走大会

女子 第4位 魚津高等学校

・第28回北信越高等学校新人陸上競技大会

女子3000m 第5位 川尻 悠加 1-2

○卓球部

・令和5年度富山県高等学校秋季卓球選手権大会新川地区予選会

男子ダブルス	3位	建部 隼汰	1-4
		池田 幹太	1-4
男子シングルス	3位	建部 隼汰	1-4
女子ダブルス	1位	長谷 朋実	2-2
		中陣 桃那	1-2
	3位	福島 瑞稀	1-3
		伊井 初葵	1-2
女子シングルス	2位	長谷 朋実	2-2

○男子バレーボール

- ・令和5年新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝
- ・令和5年度北日本新聞社杯争奪新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝

○女子バレーボール

- ・令和5年新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝
- ・令和5年度北日本新聞社杯争奪新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝

○吹奏楽部

・第4回JBA管打楽器ソロコンテスト富山県大会

高校生の部金賞	
アルトサクソフォン	木瀬 彩乃 1-1
ピアノ伴奏	大倉 和子 1-1

・第40回管楽器・打楽器ソロコンテスト北陸大会

金賞 北陸代表 全国大会出場	
サクソ独奏	木瀬 彩乃 1-1
ピアノ伴奏	大倉 和子 1-1

○書道部

・第48回富山県青少年美術展

書部門 銀賞 池田 華乃 3-4

○写真部

・第35回富山県高等学校文化祭

写真部門 優秀賞 上原 唯葉 1-1

○アーチェリー

・令和5年度富山県高等学校秋季大会

第32回富山県高等学校秋季アーチェリー選手権大会
70mラウンド女子個人 3位 中 袖希 1-1

○カヌー競技

・令和5年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会

少年女子カヤックフォア 200m 3位 晴枝 葵 3-2

・第78回国民体育大会

少年女子カヤックシングル 200m 7位 晴枝 葵 3-2

○高志の国文学情景作品コンクール

文芸部門 銅賞 澤田 百加 2-2

○第24回富山県高等学校英語プレゼンテーションコンテスト

リサーチ・プロジェクト部門 最優秀賞	島田 唯汰	2-2
	堤谷 空	2-2
	村崎 弘明	2-2
	山越 雄貴	2-1

○とやま科学オリンピック2023

数学分野	銅賞 平野 翔太	2-1
	銅賞 東堂 泰慎	2-1
物理分野	銅賞 中田 亮牙	2-1
	銅賞 山越 雄貴	2-1



カヌー競技



英語プレゼンテーションコンテスト



女子バレーボール部



吹奏楽部



男子バレーボール部

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://uozu-dosokai.net/>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>